

## 「(仮称) これからの滋賀県立図書館のあり方」について

### 1 策定の趣旨

県立図書館は、昭和55年の開館以来、利用者が求める図書資料の着実な提供と市町立図書館の支援を業務の中心に据えて取り組んできました。その間、県立図書館を取り巻く状況は大きく変化し、様々な課題に直面しています。

また、新しい出版の形態である電子書籍の動向など、今後の情報化社会の進展も視野に入れた県民への資料提供のあり方についても検討する必要があります。

こうした状況をふまえ、平成28、29年度の2か年をかけて、今後の10年を見据えた県立図書館のあり方を検討し、これからの県立図書館の姿を明確にします。

### 2 これまでの経過

県立図書館の現状と課題、期待される役割等を把握するため、県政モニター、県立図書館の利用者、市町立図書館利用者および関係機関等にアンケートを実施しました。また、関係機関・団体から意見を聴取するとともに、他府県の動向等も調査しました。

これらの結果等を基に図書館協議会で協議し、教育委員会、常任委員会に諮り、平成29年3月に県立図書館の現状と課題について整理しました。

### 3 現状と課題

- ・全市町に市町立図書館が設置され、県民は地元の市町立図書館を主に利用している一方、県立図書館のサービスに対する認知度は低い。
- ・県立と市町立図書館が協力して、県民への図書サービスを提供し、蔵書・貸出等について高い水準で維持しているが、市町立図書館・県立図書館ともに資料費が減少し、貸出数は減少傾向にある。

上記の現状や社会情勢の変化を踏まえ、県立図書館の役割である「市町立図書館への支援」と「県民に対する直接サービス」について、今後10年を見据えて方向性を検討していく。

### 4 検討の進め方(スケジュール)

- H29.4～ これまでの議論を基にこれからの県立図書館の方向性を検討
- H29.6～ 方向性に対する対応策の検討
- H29.9 骨子案作成
- H29.11 原案作成
- H29.12 「(仮称) これからの滋賀県立図書館のあり方」策定

## 滋賀県立図書館の現況

## 1 施設の現況

【本館竣工】	昭和 55 年 (1980) 3 月 31 日
【本館開館】	昭和 55 年 (1980) 7 月 11 日
【地下書庫増築竣工】	平成 3 年 (1991) 12 月 31 日
【地下書庫運用開始】	平成 4 年 (1992) 4 月 1 日
【構造】	鉄筋コンクリート造地上 3 階地下 4 階
【建築面積】	3,189 m <sup>2</sup>
【延床面積】	12,812 m <sup>2</sup> (本館 6,766 m <sup>2</sup> 地下書庫 6,046 m <sup>2</sup> )
【収容能力】	200 万冊 (本館 70 万冊 地下書庫 130 万冊)

## 2 資料の所蔵状況等

【図書】(平成 28 年度末)	1,411,705 冊
(内訳) 一般図書	1,057,635 冊
児童図書	237,189 冊
外国語図書	13,203 冊
団体用図書	23,761 冊
滋賀県関係図書	79,917 冊
(うち貴重資料)	5,472 点

【雑誌】(平成 28 年度)	2,914 誌
(内訳) 購入雑誌	436 誌
寄贈雑誌	2,314 誌
市町立図書館移管雑誌	164 誌

【新聞】(平成 28 年度)	52 紙
(内訳) 購入新聞	18 紙
寄贈新聞	34 紙

## 3 運営の体制

32 人 (内訳) 職員 29 人 (うち司書有資格者 25 人)  
嘱託員 3 人 (学校図書館支援員 2 人、資料整理業務取扱員 1 人)

## 4 利用の状況 (平成 28 年度末)

【個人貸出冊数】	770,349 冊
【市町立図書館への協力貸出】	35,362 冊
【入館者数】	248,357 人